

シラウオの臀鰭条数について

千田 哲資

(1973 年 2 月 22 日受領)

On the Number of Anal Fin Rays  
of the Salmonoid Fish,  
*Salangichthys microdon*

Tetsushi Senta

Some ichthyologists of recent years in Japan have described the number of anal fin rays of the salmonoid fish, *Salangichthys microdon* as 14~20 or 16~20. However, the actual number observed for the fish caught in Takahashi Estuary of Okayama Prefecture and the northern Ise Bay was 24~29, agreeing well with the range given by the authors of former years including the original description (Bleeker, 1860).

(Research Department, Southeast Asian Fisheries Development Center, Changi Point, Singapore)

さきに筆者は岡山県高梁川産シラウオの漁期・漁況の推移、生物学的特性などについて報告した(千田, 1973)。その研究を始めるにあたり、上記シラウオを松原(1955)の検索により同定しようとしたところ、後述のように、他のすべての諸形質は *Salangichthys microdon* Bleeker に一致するにもかかわらず、臀鰭条数のみは大きく異なった。そこでシラウオに関する従来の主要文献を比較検討し、それらが臀鰭条数を 23 以上 29 までとするものと 14 以上 20 までとするものの二つに大別され、かつ明らかに後者が誤りであることを知った。これら誤記載を含む文献が信用度が高く広く使用される文献であるので、後日の混乱を防ぐためにここに検討の結果を報告する。

1967 年 3, 4 月に高梁川で漁獲されたシラウオ、雄 9 尾、雌 24 尾について計数した諸形質は Table 1 のとおりである。計数にあたっては標本をあらかじめア

リザリン・レッドで染色した。

上記の諸形質を松原(1955)の検索の記載と比較すると臀鰭条数を除いてきわめてよく一致する。

シラウオに関する既往の主要文献に記載されている鰭条数は Table 2 のように要約される。表から明らかかなように、これらの文献は臀鰭条数に関し次のふたつに大別される。その 1 (A 群とする) は 23 以上 29 までとしたもので、このなかには Bleeker (1860) の原記載が含まれている。他の 1 (B 群) は 14 以上 20 までとし、その多くは本種を同定するにあたって普通に使用されるであろう文献である。

Bleeker (1860) が A 群に属し、かつ高梁川産標本の臀鰭条数も Table 1 のとおりである以上、ここで検討を要するのは B 群であろう。

B 群でもっとも早く現われた文献は Wakiya and Takahasi (1937) で、“Dorsal rays 11 to 15; anal rays 14 to 20; ...”と記してある。しかし同氏らの邦文報告(脇谷・高橋, 1913)には“D. 12~14 (most 12 or 13); A. 25~29 (most 26 or 27); P. 14~19 (most 16~18); ...”とある。この食い違いについて後から出版された 1937 年の英文報告中に何らの説明もないところからみると、前者では元来“Dorsal rays 11 to 15; anal rays 25 to 29; pectoral rays 14 to 20; ...” (下線筆者)とすべき筈のところ、印刷に際し下線箇所が脱落したものと判断される。両報告の鰭条数範囲の上限もしくは下限における 1 本の差は、材料の増加に伴うものであろう。

松原(1955)および岩井(1965)は、検索および図鑑という性質から、Wakiya and Takahasi (1937) に従ったものと考えられる。ただし前二者ともに臀鰭条数の下限が後者のそれより 2 本多いこと、および岩井(1965)の胸鰭条数が何に基づくものであるかは不明である。

Okada and Mori (1958) の報告は原報であるから、上記の場合と問題の性質が異なるであろう。仮に彼ら

Table 1. Meristic characters of *Salangichthys microdon* in Takahashi Estuary, Okayama Prefecture, based upon countings for 9 males and 24 females caught in March and April, 1967. Modes are in parentheses.

Fin rays			Teeth		
Dorsal	11~13	(12)	Mandibular	9~20	(11~16)
Anal	24~29	(25~27)	Palatal	5~12	(8)
Pectoral	14~19	(17~18)	Anal scales in male	16~20	
Pelvic	7				
Caudal	19~20	(19)			

Table 2. Number of fin rays of *Salangichthys microdon* reported by various authors.

Author	Number of fin rays			Locality
	Dorsal	Anal	Pectoral	
<b>Group A</b>				
Original description (Bleeker, 1860)	13	26~27	16	Jedo (Tokyo)
Kitahara (1895)	13	26~27	16	Kasumigaura
Regan (1908)	12~14	25~27	15~16	Jedo, Yokohama, Seto Inland Sea
Wakiya and Takahasi (1913)	12~14	25~29	14~19	Akita Pref. to Mie Pref.
Dai Nihon Suisan-kwai (1931)	11	23	—	—
Ota (1951)	—	25~26*	17~18*	Lakes Nakano-umi and Shinji-ko
Tomiya et al. (1958)	12~14	25~29	14~19	—
The present author	11~13	24~29	13~19	Okayama Pref., Mie Pref.
<b>Group B</b>				
Wakiya and Takahasi (1937)	11~15	14~20	—	Sakhalin, Korea, whole Japan
Matsubara (1955)	11~15	16~20	—	—
Okada and Mori (1958)	11~15	16~20	—	Akasuka (Kuwana)
Iwai (1965)	11~15	16~20	15~19	—

\* Counted from the text-figures.

Table 3. Number of fin rays of *Salangichthys microdon* caught in the northern Ise Bay on January 31, 1973. Modes are in parentheses.

	Ibi Estuary (Kuwana City)		Tomida-hama (Suzuka City)		Total
	Male	Female	Male	Female	
No. of specimens	12	21	10	16	59
Dorsal fin	12~13 (12~13)	11~13 (12~13)	11~13 (12)	11~13 (13)	11~13 (12~13)
Anal fin	24~28 (26)	24~28 (25~26)	24~26 (26)	24~28 (25~27)	24~28 (25~26)
Pectoral fin	14~18 (16)	13~17 (14~16)	13~17 (14~16)	13~16 (14~16)	13~18 (14~16)

の記載が正しいとすると、桑名市付近、更に場合によっては広く伊勢湾産のシラウオは *S. microdon* ではなく、全くの新種とみなすべきである。なぜならシラウオ科の魚の中で臀鰭条数が 22 以下である種類は——Wakiya and Takahasi (1937) の上述の例を除き——知られていないからである (Regan, 1908; 脇谷・高橋, 1913)。

この点について確めるため、Okada and Mori (1958) の研究地である桑名市赤須賀に近い揖斐川河口上流 7 km および鈴鹿市富田浜地先の両漁場で漁獲されたシラウオ計 59 尾について鰭条数を調べた。その結果は Table 3 に示したとおりで、臀鰭条数は 24~28 の

範囲にあった。

Okada and Mori (1958) の記載と著者の得た結果が異なることについて可能な解釈はいくつありかある。すなわち、i. 以前桑名市付近には実際に臀鰭条数の少ないシラウオが生息していたが、ここ 15 年の間に別の種類 (*S. microdon*) と交替した; ii. 臀鰭条数の少ないシラウオは昔も今も存在するが、その数はきわめて少ない、しかも Okada and Mori は偶然そのようなシラウオのみを観察した; iii. Wakiya and Takahasi (1937) におこったであろうと同じミスプリントを生じた; iv. 実際には計数せず、松原 (1955) に従った、などである。

上記のうち i, ii, iii の可能性はほとんど考えられないから, iv の場合であろうと思われる。

### 結 論

以上を総合してシラウオの鰭条数は, D. 11 ~ 15; A. 24 ~ 29; P. 13 ~ 19 とすべきであり, いくつかの主要文献にみられる少ない臀鰭条数については訂正の必要がある。

終りにあたり, 高梁川産シラウオの標本を御貸与下さった岡山県水産試験場長本田信夫博士ならびに同水試福田富男技師, 伊勢湾産シラウオの標本入手について御配慮下さった水資源開発公団中部支社藪田正美技官ならびに三重県立神戸高校角田保博士に深甚の謝意を表す。

文献入手に際し, 九州大学農学部水産学科木村清朗氏と東京大学資料館井田斎博士の暖かい御援助を頂いたことに厚くお礼申し上げます。

### 引 用 文 献

- Bleeker, P. 1860. Zesde bijdrage tot de kennis der vischfauna van Japan. Act. Soc. Sc. Indo-Neerl., 8: 1~104.  
大日本水産会. 1931. 日本水産動植物図集, (上), iii+50+vii pp., pls. 1~50.  
岩井保. 1965. しらうお, p. 182. In 岡田要・内田清

- 之助・内田亨監修, 新日本動物図鑑(下), 北隆館, 東京. x+763 pp., 2169 figs.  
北原多作. 1895. 霞ヶ浦の動物に就て(承前). 動物学雑誌 7: 179~181, 1 figs.  
松原喜代松. 1955. 魚類の形態と検索. 石崎書店, 東京, iv+xi+789 pp., figs. 1~289.  
Okada, Y. and K. Mori. 1958. Ecological study of *Salangichthys microdon* in breeding season. II. Development of the "white fish", *Salangichthys microdon*. Rep. Fac. Fish. Pref. Univ. Mie, 3: 26~28, pls. 1~2.  
太田繁. 1951. 中海, 宍道湖産白魚の第二次性徴並びに魚群系統. 水産研究誌, 41: 17~25, 6 figs.  
Regan, C. T. 1908. A synopsis of the fishes of the subfamily Salanginae. Ann. Mag. Nat. Hist., ser. 8, 2: 444~446.  
千田哲資. 1973. 岡山県高梁川における産卵期のシラウオ. 魚類学雑誌, 20(1): 29~35, 4 figs.  
富山一郎・阿部宗明・時岡隆. 1958. 原色動物大図鑑, II, 北隆館, 東京, xiv+392+lxxxvi pp., 1157 figs.  
脇谷洋次郎・高橋仁助. 1913. 日本産シラウオ. 動物学雑誌, 25: 551~555, figs. 1~5, 1 pl.  
Wakiya, Y. and N. Takahasi. 1937. Studies on fishes of the family Salangidae. J. Coll. Agri., Tokyo Imp. Univ., 14: 265~296, figs. 1~3, pls. 16~21.  
(シンガポール, チャンギ, 東南アジア漁業開発センター, 調査部局)